

高等学校の探究の実践について

山梨県立吉田高等学校 廣瀬 志保

1 探究モード

1) 探究モードの現状

・2022年度から実施の高等学校学習指導要領では校「探究」の名前の付く科目が新設された。

・「古典探究」「地理探究」「日本史探究」「世界史探究」「理数探究」「理数探究基礎」、そして、必修科目であり、2019年度より先行実施の「総合的な探究の時間」である。

・大手受験産業等による「探究」と名前が付く研究会や講演会、が急増した。また、高校で探究を進めるための教材も立て続けに出版された。

・情報誌では特集が組まれることが増えた。

○リクルート進学総研「キャリアガイダンス」

なぜ今、「探究」なのか？（2018年10月）

http://souken.shingakunet.com/career_g/2018/10/vol424201810-df94.html

「探究」で育む資質・能力とその評価（2018年12月）

http://souken.shingakunet.com/career_g/2018/12/vol425201812-a01b.html

○ベネッセ教育総合研究所「View 2 1」

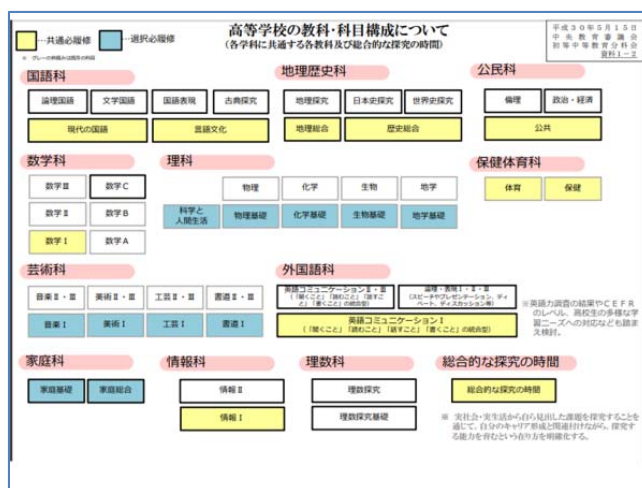
「問い」を起点に考える探究学習（2018年8月）

<https://berd.benesse.jp/magazine/kou/booklet/?id=5325>

○今夏は、日本教育新聞社と株式会社ナガセ（東進ハイスクール）主催夏の教育セミナーに英数国に加えて「探究」が新設。

○探究の取り組みを発表するコンテストやコンクール。

たとえば、全国高校生マイプロジェクト実行委員会（運営事務局：NPOカタリ場）主催のマイプロジェクトアワード。日本制作金融公庫主催「高校生ビジネスプラン・グランプリ」。クエストカップ実行委員会・教育と探求社主催「GUESTCUP」、大学が主催（共催）のコンテスト、ビジネスコンテストなど。



2) 何故、「探究」なのか

- ・ 5月17日 教育再生実行委会議 第11次提言
- ・ シンギュラリティー
- ・ Society 5.0
- ・ OECD 教育局長 アンドレアス・シュライヒャー氏インタビュー記事(H29.8.11 読売新聞)
- ・ 小中学校の全国学力学習状況調査のクロス集計結果 (H28・H29)
- ・ 日本生活科・総合的学習教育学会 高等学校調査結果 (H26)

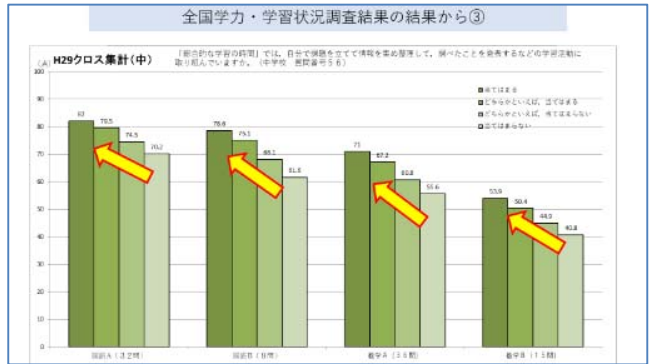
Society 5.0のキーワード

- ・ 学びの仕方の変革
- ・ 異年齢・学年集団での協働学習
- ・ 学びのポートフォリオ
- ・ 高校における文理分断の改善
- ・ STEAM教育やデザイン思考
- ・ 地域人材の育成の推進

Society 5.0の学校教育においては、「教師」にはこれまでの児童生徒を教え導く役割に加え、今後、学びの支援者という役割

3) 高校現場での探究

- ・ 4月から、「総合的な探究の時間」がはじまり、各学校での探究への取り組みも本格化。
- ・ 総合的な探究の時間学校は、各学校が内容を定めることのできる唯一の授業であり、学校教育全体の各として学校教育目標の実現を目指す。
- ・ 「総合的な探究の時間」を教科学習と関連づけ、探究の質を高める。
- ・ 単元配列表の利用。



2 高校での実践事例

1) 山梨県立塩山高等学校の実践

- ・ CMで山梨をPR：生徒の意見に大人（先生）が意見を言い過ぎて、生徒の自己肯定感も上がらず・・・ 上手くいかなかった。
- ・ 地域防災：すでに自治体がマップを作りそれ以上のものがつukれないと考え、学校近くの寺から避難所（学校）までの安全な経路を実際に歩き調査。実際に作成した看板を寺に設置した。
- ・ 星めぐりのツアー企画：山梨県全体で観光客が少ない2月（閑散期）に観光客に来てもらうためのツアーを企画。パンフレットを作り配布と同時に科学館でアンケートを行い、企画を立てた。

2) 山梨県立富士河口湖高校の実践

- ・ 地域の文化を広める：富士山信仰について調査し多言語で神話のパンフレットを作って観光地で配布した。
- ・ 39（サンキュー）クッキーでおもてなし：土

地域創生「地域への興味・関心からグローバルな発見」（総合的な学習の時間）

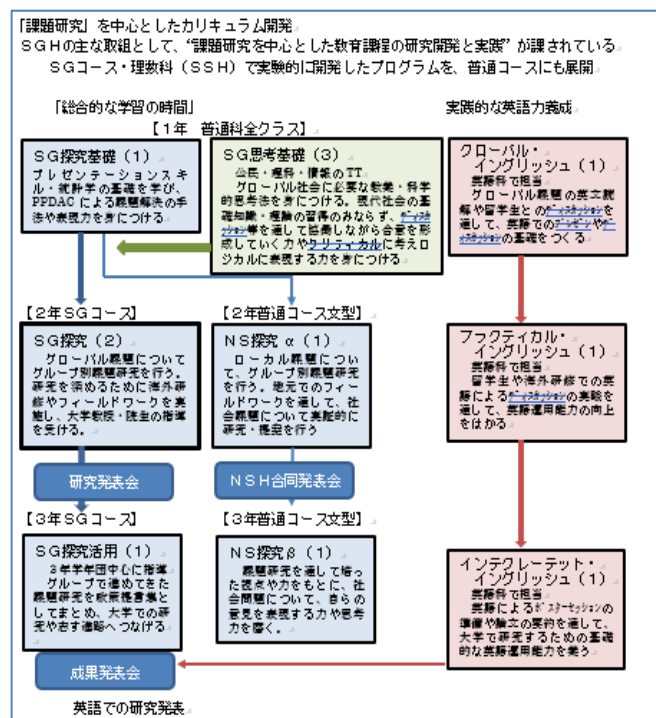
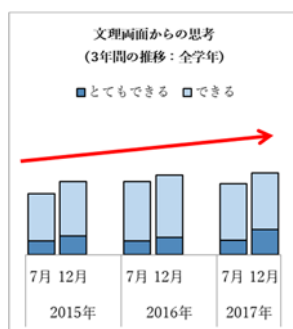
1 年間計画		
4月～7月	課題設定	富士北麓地域を活性化するためのテーマを決定
8月	情報収集	フィールドワークを行い、アンケートやインタビューをする
9月～12月	整理分析	マトリクスなどで対応策を考え、高校生が取り組めることを実行する
1月～3月	まとめ発表	山梨県庁観光部に活性化策を提案する

産店をリサーチし地域の洋菓子店と連携して地産の材料でクッキーを作り、地域の祭りで販売した。

- ・自然災害に備えて：環境省、環境科学研究所などで地域の災害について学び、防災トラップを作成して広めた。

3) 石川県立泉丘高等学校の実践

- ・SSH と SGH の指定を受ける。
- 文理融合で SDGs にも取り組む。
- ・「課題研究」を軸とした探究的な学びの構築
- 1年：基盤づくり、2年：実践、3年：学びの統合と進路実現。
- ・文理融合：文系理系混在のSGコースを設置
- ・1年次の研究において社会科学・自然科学の両方からのアプローチ。



3 高大接続に向けて

1) 広がり深まる探究

- ・社会に、日常に、大学での学問研究につながる学び。
- ・多様な力を伸ばす。

2) 探究的から探究へ

- ・高度化：整合性・効果性・鋭角性・広角性
- ・自律的：自己課題・運用・社会参画

3) 探究と総合型入試

- ・探究の深化と評価の一体化を可能とする高大接続教育プログラム。
- ・高校の教員の意識改革、授業改善が進む。
- ・学習指導要録及び活動報告書の変更への対応。

富士北麓地域から世界へ(総合的な学習の時間)

(1)班 氏名()

課題(テーマ)

富士北麓地域の文化を広める

課題設定の理由

富士山は世界文化遺産であるが、富士山信仰や文化芸術などについてはあまり知られてないことがわかった。そこで、富士山の文化や信仰について調査し、広く知ってほしいと考えた。調査して、私たちも知らないことが多かったので、私たちの次の世代の子供たちに伝えたいと考えた。さらに外国の方々にも文化を知ってもらい、この地域にさらに興味を持ってもらいたいと考えたため、この課題に設定した。

課題解決の方法(情報の収集・整理分析・まとめ・発表方法等)

●課題解決の方法

富士吉田市市役所の新井さんに富士北麓地域の現状と課題についてお話を聞く。山梨県知事政策局富士山保全推進課の小池さんに富士山の歴史的な意味について聞く。地域の方や地元詳しい方のお話を聞いた。それに加え、書籍やインターネットで情報を集めた。富士山ミュージアム、御師の家などを訪れ、文化や信仰、芸術について調査した。

●わかったこと・できること

富士山の文化遺産について、よりわかりやすく興味を持ってもらうためには、手はじめに民話や神話を知ってもらうのが良いと思った。

①富士山ミュージアムで見た富士浅間神社の御神体である「コノハナサクヤヒメ」の神話を紙芝居にアレンジして地域の子供たちに伝えることにした。

11月には松山児童館で紙芝居と、新井さんや小池さんの話をもとに考えたクイズを発表した。小学生からは「面白かった」「絵がきれいだった」という感想が聞かれた。またクイズは大変盛り上がり楽しめる内容だった。

②地域には海外からの観光客も前年比を大きく上回っている。そこで、紙芝居を英語に翻訳して外国の方に聞いてもらった。ブラジルの方からは、話の途中で「面白い」と言われ、日本人にとって神話の世界は身近だが、海外の方にとっては奇想天外な物語に聞こえたということがわかり、驚いた。また、アメリカやカナダの方からは、「国の歴史が浅いので、神話のようなものはあまりないのでとても面白かった」という感想を得た。

英語版は海外交流班と協同で作成・マレー語はマレーシア大学の学生に依頼し作成した。



【児童センターでの交流会】



【外国の方へ英語で紙芝居を披露】



課題の解決策と今後

神話を絵入りの多言語のパンフレットにして、配布した。

現在、忍野八海にまつわる民話を調べている。今後、それをもっとたくさんの子供たちに伝えたい。また、多言語に訳した民話をパンフレットにして、駅などの海外からの観光客の集まる場所に設置する。

感想

民話を紙芝居にして小学生に伝えたことで、文化に少しでも興味を持ってもらえたと思う。クイズも好評だったので改良して、より分かりやすく富士山について知ってもらえるようにしたい。

また、英語に翻訳した紙芝居は、実際に海外の方に発表してみると、面白がったり、興味を持ってくれたので、パンフレットの種類を増やしたいと考えている。

富士北麓地域から世界へ(総合的な学習の時間)

(2)班 氏名()

課題(テーマ)

39クッキーでおもてなし

課題設定の理由

「土産」の語源には諸説がみられ、そこには神仏や貴人に対する「献上品」や「もてなし」の意が色濃く潜在しているといえます。商品を開発し、それを販売することで地域の活性化をはかり、自分たちの住んでいる地域に貢献したいと考えたからです。

課題解決の方法 (情報の収集・整理分析・まとめ・発表方法等)

調査方法

- インタビュー 地域の土産店
 - インタビュー調査からわかったこと
 - ・人気お土産・・・キーホルダー、食べ物、置き物、ポストカード。
 - ・食べ物・・・日本人は山梨ならではのものを好み、外国人は日本らしいものを好む。
- たくさんお客さんがいるお店のポイント
- ・店内が明るい
 - ・曲が流れている
 - ・季節のものが置いてある
 - ・店員が明るい
 - ・試食がある
- 地域の食品、お土産店アンケート
- おすすめの店、場所、メニューの調査



解決策

●商品開発・・・私たちのテーマにぴったりの商品を探したところ、お土産屋さんにもあったクッキーならば地元の食材を使用し、自分たちで作り販売することができるのではないかと考えた。

地元の放牧鶏卵を使ったスイーツを作っている、富士吉田市の「すまいる庵」と連携し、オリジナルのクッキーを作り、11月のもみじ祭りで販売することを決めた！！

そのクッキーは自分たちで大きさ、味、デザインなど全て考え作った。

○39クッキー

- ・名前の意味・・・河高の39期生ということと、買ってくれた方への感謝の気持ちを込めて39(サンキュー)クッキーという名前にした。
 - ・形・・・富士山型、もみじ型、ニコちゃん型
- ↑学校の近くに富士山があり、とても馴染み深い山だから。もみじは紅葉祭りだから。ニコちゃんはすまいる庵さんのイメージキャラクターだから。

- ・味・・・抹茶、チョコレート、プレーン

↑外国人に人気のある抹茶と、紅葉をリアルに再現するためにチョコとプレーンをマーブル状にした。

- ・6枚で1セットで390円で販売

↑39クッキーという名前にちなんで390円。



○実際にクッキーを作ってみて感じたこと

- ・物を作るということの大変さを感じた。
- ・ばらつきがないようにないようにクッキーの厚さを揃えたり型をとるときにひねったりする工夫をした。

感想☆今後

次のイベントでも39クッキーを販売したいと思う。また、第2弾として、富士北麓地域を思い出してもらうことを目的に、形に残るようなものを商品開発してリピーターを増やしたいと思う。今回出た課題を生かした接客にも心がけ、自分たちの活動をより多くの人に知ってもらい、この地域の活性化に貢献したい。この経験を通して、高校生の私たちにも町をPRすることができたという達成感を得ることができた。商品を一から考えて作ることはとても大変でたくさんの人の協力が必要なのだと感じた。また、自分たちで考えたことが実際に商品として形になったのはとてもうれしかった。貴重な体験ができたことに感謝している。

富士北麓地域から世界へ(総合的な学習の時間)

(3)班 氏名()

課題(テーマ)

自然災害に備えるにはどうすればよいか

課題設定の理由

富士北麓の地域は、富士山の噴火や地震などにより大きな被害があった。今後いつ自然災害が起こるかわからないので、いざという時のためにこの課題を設定した。

課題解決の方法

●調査方法

地域の防災について知るために富士河口湖町役場防災課で取材
環境科学研究所を訪れ、学術的な内容について調査。

○わかったこと

北麓地域で実際に発生した災害には、噴火や地震だけでなく普段あまり耳にしない「雪代(ゆきしろ)」という災害があった。

雪代とは、富士山などに積もった雪が春先に溶けることで、土砂とともに一気に崩れ落ちる災害のこと。
富士北麓地域は多くの人が観光で訪れる富士山があるが、富士山は未だ活火山なので、いつ噴火してもおかしくはない。

地震は、東日本大震災や阪神淡路大震災のように、大きな地震(南海トラフ太平洋沖地震など)が近く、将来ほぼ確実に発生すると言われている。

地震、噴火、雪代など、いずれの災害も、人の命を奪う大きな災害ということを再確認した。

○災害から身を守るためにはどうしたらいいか

私たちの情報収集からわかったことは、もし突然災害が発生したときに一番大事なことは、臨機応変に判断すること。そして、判断するには知識が必要だということ。

知識を身につけることによって、正しい判断ができ、より早く行動でき、格段に生存率が上がるというデータがある。

○知識を身に付けるために

私たちの地域では、富士北麓科学塾という活動が行われており、私たちはその活動に参加した。

富士北麓地域の小・中・高校生たちに向けて、火山(富士山)について、学校で学習するよりも深く、かつ実験を通して体験的に活動した。

①火山の噴火実験 ②液状化実験

どの内容も興味深かったが、③防災トランプを使った簡単なゲームをした。遊び方はほとんど普通のトランプと変わらないので、小・中・高校の生徒が混じって、楽しんで交流することができた。

●富士河口湖高校オリジナル防災トランプ作成

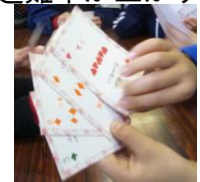
ばば抜きなどのトランプゲームをしながら、誰もが楽しみながら防災知識を身に付けられると思い、防災トランプの富士北麓版を作ることにした。市販の防災トランプに加えて、地域特有の雪代についての内容を加えることによって、より身近な防災に焦点を置くことができたのではないかと思う。

◆(ダイヤ)…火災・台風 ♥(ハート)…噴火 ♠(スペード)…地震 ♣(クラブ)…雪代・洪水・雪崩

英語や中国語、フランス語などで防災トランプを作り、外国の方にも災害知識が備わり、避難率が上がり宿泊施設で楽しんでもらいたいと考えた。

●まとめ

- ・自分たちの対策を見直すことができた。
- ・災害時、行動に移せなければ意味がないということを痛感した。
- ・自然災害への対策が重要だといことに気が付いた。



解決策

- ・富士北麓地域のオリジナル防災トランプを作って広める。
- ・他の言語の防災トランプを作る。

感想

去年の四月から始めたこの活動ですが、最初は一向に進まなくて悩んだこともありましたが、先生や、他の班の協力のおかげでこのようなレジメに完成させることができました。ある程度の知識があれば大丈夫だと最初の頃は思っていたのですが、その知識が行動に移せないと意味がないとこの活動で痛感しました。他校の活動に参加したり、研究所に寄ったりと自分たちにとっては良い刺激ばかりでした。私たちはこの活動で災害について理解し、対策を考えたことによって成長できたと思います。